

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 11 月 29 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	川口ゆり

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

西表島、日本

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

西表実習

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 30 年 11 月 7 日-11 月 11 日

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

琉球大学熱帯生物圏研究センター

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。  
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

西表実習に参加したのでここに報告する。

7日：到着。セミナー参加

西表島に到着し、琉球大学熱帯生物圏研究センターで一般向けの公開講座に参加した。外来種や温暖化の影響による桜の開花の変化についてのセミナーだった。セミナーから宿舎に戻る道すがら、夜道に光るものを見つけた。蛍、と思って照らすと(今思うと蛍にはよくなかったかもしれない)予想に反して地を這う蛍だった。オオシママドボタルの幼虫だ。飛ばずに光る蛍がいるとは知らなかった。陸生のこの蛍はこの後も毎晩見ることになる。



8日：トレッキング

船で川をさかのぼり滝までトレッキングした。川ではヤエヤマヒルギ、メヒルギ、オヒルギなどいくつかの種類のマングローブを見ることができた。周りの景色にふとボルネオを思い出す。そうだ、ここはほとんど台湾というような場所に位置しているのだとあらためて気づく。トレッキング中には白アリの巣などをみることができた。その後、西表野生生物保護センターでイリオモテヤマネコをはじめ西表の生態について学んだ。



トレッキングに向かう船と滝

## 9日：カヤッキング

準備体操をしてカヤッキングにむかう。その際セマルハコガメがいた。ウミガメと違い陸生のカメは甲羅が湾曲しており、ひっくりかえっても自力で起き上がることができるということだった。

カヤッキングは慣れずに同船した幸島先生に迷惑をかけてしまったが、マングローブをそばで見ながら楽しむことができた。そのあとのトレッキングで大きなサキシマスジオも見た。マングローブの根は水面に出る部分と水中の部分で内部の構造が違った。また、種子は細長く川に運ばれて水底に刺さるようになっていた。実際に目で見ながら教えていただくことができ西表という環境に適応した動植物について理解を深めることができた。



左から時計回りに

サキシマスジオ、白アリの巣、セマルハコガメ、マングローブ

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 10日：シュノーケリング

乗船してシュノーケリングのポイントに向かった。私は足がつくところでシュノーケリングしたことがある程度でフィンとウェットスーツを着用しての本格的なシュノーケリングは初めてだった。最初のポイントはいきなり深く、シュノーケルを用いた呼吸も慣れなかったので、なかなか船から離れることができなかった。2つ目のポイントでは恐怖心を克服することができ、船から離れて自由に見ることができた。正常の状態のカラフルなサンゴも多かったが多くが白化してしまったものだったので複雑な気持ちだった。ウミヘビも図らずもかなり間近でみることができた。シュノーケリングに慣れたであろう3ポイント目から持参した防水カメラで撮影しようと思ったが、あまりに波が高く中止になったのは残念だった。

### 11日：帰学

帰学日に天然記念物のカンムリワシがステーションの前の電柱にずっと止まっているのを見ることができた。



カンムリワシ

### 6. その他 (特記事項など)

琉球大学熱帯生物圏研究センターの先生方をはじめ、たくさんの先生、スタッフの皆さまがかかわってくださり実習が成り立っていることを強く感じました。お世話になった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。また今回の出張はPWSプログラムの支援を受けておこないました。記して感謝申し上げます。